

# 救護施設版

## 【共通評価基準】

### I 福祉サービスの基本方針と組織

#### I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 理念、基本方針は明文化され、職員が携帯する名札裏にも記載するとともに、会議や委員会にて唱和し職員への周知を図っている。また、理念は事業計画書に記載し、基本指針・行動指針にて分かりやすく解説されている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

#### I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 社会福祉事業全体の情報は、全国組織や奥越地区自立支援協議会からのネット情報等にて把握し分析を行っている。また、利用者の高齢化や障がい の多様化を経営の具体的な課題として捉え、役員間での共有や職員への周知を行うとともに、課題の改善に向けて担当事務所への働きかけや各職員の教育に力を入れている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

#### I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 中長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けての具体的な内容で策定され、計画の見直しも状況に応じて行っている。また、事業計画は、 中長期計画を反映した内容が具体的に明記され、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
7	② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 事業計画は、各部署や委員会等での職員の意見を反映し策定されており、あらかじめ定められた日程表をもとに進捗を把握し、評価を行っている。 また、事業計画は全職員に配布され、職員会議等で説明し理解を促しており、利用者に対しても各部門の担当職員からわかりやすく説明を行っている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

#### I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
9	② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
コメント	良い点/工夫されている点： 特になし。	
	改善できる点/改善方法： 評価結果について、分析結果や課題が文書化され職員間での共有化が図られているが、受審後の改善に向けた取組みがなされていないため、年に1 回以上の自己評価による改善の確認、取組みを計画的・継続的に行うことが望まれる。	

## II 組織の運営管理

### II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 管理者は、施設の経営・管理に関する方針と取組みについて、事業報告書や広報誌に明記し、職員に対し職員会議等で表明し周知を図っている。また、管理者自身も経営セミナー等へ参加し、遵守すべき法令等を十分に理解するとともに、参加したセミナーの内容（ガバナンスとコンプライアンス）を施設内の研修会で職員に周知を図っている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a
13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 管理者は、障がいの多様化や個別支援の必要性を課題とし、実施する福祉サービスの質の現状について定期的・継続的に評価・分析を行っている。また、ケアマネ研究会や職員研修会を通して職員への教育・研修の充実を図っている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

### II-2 福祉人材の確保・育成

II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
15	② 総合的な人事管理が行われている。	b
コメント	良い点/工夫されている点： 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や人材確保と育成に関する方針が確立され、中長期計画や事業計画に記載されている。また、計画にもとづき人材確保や育成が実施されており、学校回りや福祉人材説明会、外国人の採用等を実施している。	
	改善できる点/改善方法： 異動に関する人事基準が明確に定められていないため、異動に関する基準についても明確にするよう望みたい。	

II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 労務管理に関する責任体制は明確であり、職員の就業状況を適切に把握している。また、年2回の個別面談の実施や産業医と連携した相談窓口を設置するとともに、若者が働きやすい職場として「ユースエール認定」を取得している。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 「期待する職員像」が事業計画に明記され、職員が設定した目標に関しては施設長が面接し目標達成度の確認を行っており、各職員の目標管理のための仕組みが構築されている。また、個別的なOJTが適切に行われ、職員の職務や必要とする知識・技術水準に合った教育・研修を実施している。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢は「実習生受入れマニュアル」に明文化している。また、専門職種の特性に配慮した実習プログラムを用意し、指導者に対する研修を実施している。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

## II-3 運営の透明性の確保

II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
コメント	良い点/工夫されている点： ホームページを利用し、法人・施設の理念や基本方針、事業計画等、第三者評価の受審、評価結果を公開している。また、広報誌を作成し、地区の施設や町内会、学校等へ配布し、社会・地域に対し施設の存在意義や役割を明確にしている。	
	改善できる点/改善方法： 施設における事務、経理、取引等のルールは規程により明確化されているが、現場の職員までは周知されていないため、事務、経理、取引等のルールについて現場の職員へも周知することが望まれる。また、会計事務所による財務の助言等はされているが、財務だけでなく事業についても外部の専門家（公認会計士等）による監査支援等が望まれる。	

## II-4 地域との交流、地域貢献

II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 地域との関わり方についての基本的な考え方やボランティアの受入れに関する基本姿勢について事業計画等で明文化している。また、施設行事の際にはボランティアによる支援体制が整っており、神社の清掃等の各種行事を通じて、地域の人々との交流の機会が設けられている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	① 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 社会資源を明示したパネルを作成し職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化は図っている。また、奥越地区自立支援協議会等の関係機関と定期的な連絡会を開催し、ふく福サポート等の取組み等を行っている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
27	② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 奥越ブロック協議会に職員を派遣し、地域の福祉ニーズの把握に努めており、地区の保護司会へは救護施設の役割についての説明や保護司会会報に文書にて広報している。また、市相談センターに職員を派遣し、生活保護受給に陥る前の生活困窮者に対し、緊急一時受入れ事業を独自で行っている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

## III 適切な福祉サービスの実施

### III-1 利用者本位の福祉サービス

III-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
29	② 利用者のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 理念、基本方針、行動指針は事業計画書や中長期計画に明記され、職員全員に配布し周知を図っている。また、利用者のプライバシーに配慮したサービス提供に向け、基本理念、基本指針、行動指針に基づく倫理規程、プライバシー保護マニュアルを作成し、各種研究会等と協働した取り組みを行っている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	① 利用希望者に対して福祉サービス利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
31	② 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	a
32	③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a
コメント	良い点／工夫されている点： 施設利用に際してのサービス内容、日常生活上での留意事項についての「施設利用時における説明マニュアル（生活の写真やイラスト掲載）」を活用し、利用者からの主訴や要望等を把握している。また、利用者が退所（他福祉施設、家庭への移行等）する場合には、入退所委員会、救護施設居宅生活訓練、相談支援事業等により地域移行に向けた支援を行っている。	
	改善できる点／改善方法： 特になし。	

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
コメント	良い点／工夫されている点： 利用者の意向や満足度を把握するため、定期的に個室相談室を利用し、相談受付職員が対応している。また、その他の方法として、利用者アンケート、よろず相談、御意見箱、自治会長が作成する企画提案を自治会案として提出するなどの様々な方法により、利用者の生活上の満足度向上を図る取り組みを行っている。	
	改善できる点／改善方法： 特になし。	

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
35	② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a
36	③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
コメント	良い点／工夫されている点： 施設入所時に「利用説明マニュアル」を使用し、苦情相談窓口・苦情解決制度の設置、御意見の設置等について利用者および家族に対して説明を行っている。また、利用者が苦情解決に向けた流れが分かるように、苦情解決掲示板が廊下に掲示されている。また、プライバシーに配慮した相談室で「よろず相談」を実施し、利用者の意見等については、対応者、ケース担当者、担当係長、生活支援課長、施設長が記録を確認し、事業所組織全体で考えるシステムになっている。	
	改善できる点／改善方法： 特になし。	

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
38	② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
39	③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 事業所に設置された権利擁護委員会は、施設長を責任者とする関係職員等で構成され、ヒヤリハット・事故報告書を収集し対策を検討している。また、感染症対策については、マニュアル、全体保健指導、予防VTR、BCP（事業継続計画）を整備するとともに、災害時の対応としては、防災委員会を立ち上げ、大野市ハザードマップ、火災、地震、風水害等の非常災害対策を検討している。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

## Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a
41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 福祉サービスの標準的な実施方法については、運営指針や職員倫理規程に基づき業務計画を策定している。また、個別支援計画は、利用者その他の職員が参加するケア会議で経過検証と再検討が行われており、利用者の身体的状況に応じたよりきめ細やかな計画の変更によるサービス提供を行っている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	① アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。	a
43	② 定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 個別支援計画策定の責任者が配置され、計画の見直しを半期ごとに行っている。また、個別支援計画は半期ごとに経過の検討と見直しを実施しており、利用者・家族の意向をふまえた、よりきめ細やかな計画策定を行っている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
45	② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 個別支援計画の策定では、統一した個別支援計画ハンドブックや支援マニュアルの整備によって、統一性の高いサービスの提供と全職員が理解しやすい書式を通して記録の整理を行っている。また、各委員会、職員会議、調整会議の記録も統一表現化され、利用者のサービス実施状況が統一性の高い記録によって、職員同士の共有化を図る仕組みを構築している。また、利用者と家族に対しては、入所時説明マニュアル、保護者会添付文書、ホームページ同意書等を説明し、個人情報の取扱いの理解を図っている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

## 【内容評価基準】

### A-1 支援の基本と権利擁護

A-1-(1) 支援の基本		
A①	① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
A②	② 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
A③	③ 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
A④	④ 利用者の自己決定を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	a
A⑤	⑤ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用者支援等を行っている。	a
A⑥	⑥ 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： SST（ソーシャルスキルトレーニング）活動を月1回実施し、生活の中で起こる困ったことなどをロールプレイを通して行う事で、日々の生活の自信につなげる訓練を行っている。また、日中活動は、利用者の年齢や能力にあった班分けにより実施しており、利用者の希望に応じて年度途中の班変更にも柔軟に対応している。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

A-1-(2) 権利侵害の防止等		
A⑦	① 利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 権利擁護委員会が中心になり利用者アンケートを実施し、その集計結果については利用者への配布および掲示を行っている。また、職員セルフチェックを実施し、必要に応じて権利擁護委員会が職員への聞き取りを行い、その結果について報告書にまとめている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

### A-2 生活支援

A-2-(1) 日常的な生活支援		
A⑧	① 利用者の障害・疾病等の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
A⑨	② 利用者の心身の状況に応じた日常的な生活支援を行っている。	a
A⑩	③ 利用者の嗜好や心身の状況にあわせて食生活を支援している。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 困難事例については、ケアマネ研究会を通して、外部有識者による助言のもと検討会を行い支援の資質向上を図っている。また、個別対応が必要な利用者には、別部屋を用意するなどの落ち着いた環境の配慮のもと支援するなど柔軟な対応をしている。また、リハビリが必要な利用者には、週1回、外部から理学療法士が来所し、心身機能と日常動作の回復・維持に努めている。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

A-2-(2) 機能訓練・生活訓練		
A⑪	① 利用者の心身の状況に応じた生活訓練や機能訓練を行っている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 週1回、外部の理学療法士による機能訓練を行っており、日常においても歩行訓練や軽運動を取り入れている。また、居宅生活訓練事業を通して地域移行も積極的に行っており、関係機関とも連携を取りながら支援している。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	

A-2-(3) 健康管理・医療的な支援		
A⑫	① 利用者の健康管理の支援と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a
A⑬	② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	a
コメント	良い点/工夫されている点： 利用者の健康に対する意識向上のため、ポスター掲示や個別医療相談対応で注意を促している。また、精神科の薬は量が多いため1つの袋に梱包を依頼し誤薬がないように工夫している。	
	改善できる点/改善方法： 特になし。	



### A-3 自立支援

A-3-(1) 社会参加の支援		
A⑭	① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加のための支援を行っている。	a
コメント	<p>良い点/工夫されている点： 市内にある訓練用住居での「居宅社会事業訓練」の利用者は地元自治会に所属し、町内の奉仕作業に参加している。また、事業所内の談話室には、雑誌、大野市市報、新聞を置き、社会参加に向けた情報提供の支援を行っている。</p> <p>改善できる点/改善方法： 特になし。</p>	

A-3-(2) 就労支援		
A⑮	① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a
コメント	<p>良い点/工夫されている点： 施設内では、各班（農業、こども、のぞみ、内勤実習）に分かれ作業を行っており、就労を取り入れた活動を行っている。また、外勤をしている利用者については、利用者の意向や障がいの状況に合わせ、働く意欲の維持・向上の為に支援を行っている。</p> <p>改善できる点/改善方法： 特になし。</p>	

A-3-(3) 家族等との連携・支援		
A⑯	① 利用者の家族等との連携と支援を適切に行っている。	a
コメント	<p>良い点/工夫されている点： ホームページ掲載や広報誌「雪やなぎ」を年2回発行し、利用者の生活状況を発信している。家族などからの訴えに対しては、その都度対応しており、個々のケース記録や報告書にて報告している。</p> <p>改善できる点/改善方法： 特になし。</p>	

A-3-(4) 地域生活への移行と地域生活の支援		
A⑰	① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
コメント	<p>良い点/工夫されている点： 地域生活を希望する利用者には、市内にある訓練用住居での「居宅生活訓練事業」を活用して、利用者の個別支援計画をもとに各専門スタッフと連携して社会自立に向けた取り組みを行っている。</p> <p>改善できる点/改善方法： 特になし。</p>	

### A-4 地域の生活困窮者支援

A-4-(1) 地域の生活困窮者等の支援		
A⑱	① 地域の生活困窮者等を支援するための取組や事業を行っている。	a
コメント	<p>良い点/工夫されている点： 地域公益事業として「緊急一時入所事業（すまいる）」や「ふく福暮らしサポート事業（生活困難者総合相談・生活支援事業）」を実施している。また、緊急一時入所者に対しては短期目標を立て、自立支援につなげている。</p> <p>改善できる点/改善方法： 特になし。</p>	